

亀山地区社会福祉協議会の活動

—出来る事から小さな福祉を亀山の地から—

令和3年11月2日

安佐北区 亀山地区社会福祉協議会
会長 大畠正彦

一般社団法人まちづくり四日市役場

亀山地区社会福祉協議会の活動

亀山地区社協の紹介

亀山地区社協は、広島市安佐北区旧可部町地域の7学区の亀山小学校区にあり、国道191号線と大毛寺川に沿って広がっています。昔の村、大毛寺、四日市、綾ヶ谷、勝木、行森から成り、山間地域、大型団地地域、都市化地域が混在し人間味あふれる地域です

地域の北側には、西の高野山と呼ばれる「福王寺」があり、令和10年には開基1,200年をむかえます。地域は高齢化の中で、児童数も多く僅かではありますが増加の傾向にあります。地区内には15自治会・町内会があり、世帯数約7,300戸、人口は約16,100人で安佐北区内では1番大きな学区です。

地区社協の拠点、地区の西側 亀山7丁目に第1拠点の本部があります。また、地区内で会員の多い地区の東側 亀山3丁目に第2拠点「社協かめやま分室」を【まちづくり四日市役場】内に設置しています。

亀山地区社会福祉協議会の活動



○ まちづくり四日市役場とは

平成27年4月に可部のまちの中心部にある「古民家」を残してほしいとの要望が、家主からあった。この建物は、安芸の国独特の豪農家のつくりである。この可部の中心部に築100年以上のこれだけの「古民家」が残っているのは奇跡と言えるので、手を加えることなく残す事とし、役場とした。

○ 「古民家」がなぜ役場なのか

役場は、昔からその地域で中心となる場所で、誰もが行きやすく、何でも相談できる、くつろげる所で、行ってみたくなり、行きたい所、地域の交流の場である。

○ 今の役場は何をしているのか

地域の居場所として「地域交流の場」「認知症カフェ」「子ども達の居場所」「行き場のない人の居場所『いどばた』」地区社協「分室」など、地域の人々が気軽に出入りしている。

亀山地区社会福祉協議会の活動

まちづくり四日市役場の活動全体図

地域共生社会の実現に向けた“古民家を拠点”にした住民・支援機関・行政の連携・協働

まちづくり四日市役場

地域課題への取り組み

特徴的な利用や役割

フラットホーム 住民参加と関係機関の連携・協働

子ども

子育て支援・子どもの交流
○よつばクラブ(毎月第4日曜日)
○よつば教室(夏季学習支援)
○木曜クラブ

学校でも家庭でもない地域の行き場／子育て中の親同士、子どもの交流

・乳幼児から小学生までの子どもの遊び・学び・交流の場
・共働き夫婦、父親の子育て参加。孤立しがちな親と子どもの参加

ボランティア等

よつばメイト
(保育、教員経験者のボランティア)

関係機関

子育て支援センター
地域支えあい課
社会福祉協議会

高齢者

認知症カフェ
○古民家カフェ(毎月第3水曜日)
○新古民家カフェアフター

認知症になっても暮らしやすい地域づくり、認知症についての学びと交流

・グループホーム等の当事者をはじめさまざまな人が参加
・障害者のボランティア参加
・専門職の参加による「カンファレンス」

高齢者の居場所
○古民家サロン(毎週水曜日)

可部いきいき会
(地域のボランティア団体)

地域包括支援センター
地域支えあい課
<広島市認知症カフェ>

参加者の自主運営

社会参加

地域の居場所づくり
○所属のない人の居場所
○自由なプログラムでの交流

所属のない人を中心に、誰もが集える地域の行き場・居場所づくり

・ひきこもりや所属のない人の参加する場、社会参加のきっかけづくり
・保健師等、専門職経験者のボランティア参加

保健福祉関係専門職経験者のボランティア

基幹相談支援センター
保健センター
障害者相談支援事業所

相談

困り事相談
○亀山地区社協分室「相談所」
○地域の支えあい活動

身近な困り事の相談とみんなで支え合う地域づくり活動へつなぐ

・身近なところでの生活についての相談、ピアな関係による支援

身近な相談
合同相談会

亀山地区社協
社会福祉協議会

交流

地域の交流
○フリーマーケット
○役場まつり

さまざまな人びとが知り合い、地域活動参加へのきっかけづくり

・女性サークル等の出店参加
・障害者就労支援事業所の出店参加

出店者の運営
介護関係者のボランティア

障害者就労支援事業所
さまざまなサークル、団体

多機能事業

古民家の保存
○築百年の伝統的建物の修復保存
○人が集うよう活用

明治末期の安芸地方農家の貴重な建造物の伝統を守り、後世に伝える

・田舎のおばあちゃんの家に戻ったような安心感
・人びとの心を開き、つながりやすい伝統的な日本家屋

自主活動への会場提供
○地域の団体の活動
○災害時の臨時避難所

地域共生社会、地域の活動の拠点としてさまざまな利用

・多様な人びとのさまざまな活動の展開
・利用をとおした社会貢献

障害者の就労の場

八木園 喫茶テ・ミール

ケアマネ

居宅介護支援事業所
かざぐるま

「無何有の郷」
織物、染物
「玉手箱の会」手
芸品創作

亀山地区社会福祉協議会の活動

拠点の様子（四日市役場との相乗効果）



居場所「いどばた」



合同相談会



こども達の遊び場「よつば教室」



認知症カフェ



居場所「交流の場」

亀山地区社会福祉協議会の活動

活動中に気に病んだ事
が発生

一社協 相談事業の礎

相談のできる体制の見直し

令和3年4月に「老々介護疲れ」による殺人事件が発生

見守り活動として
どうであったのか

介護者は誰かに相談は出来なかったのか
相談が出来る環境でなかったのか

この事件をキッカケ
として

地区社協として気軽に相談が出来る環境の見直しを行った
以前からの「本部開設火・木曜日」「社協かめやま分室開設月・水曜日」相談日の充実

官民一体の合同
相談会

地区社協として毎月第2月曜日に行政、地域包括支援センター等を含む
地域の福祉団体による合同相談会を実施し、情報の共有化を図った

相談事例

拠点事務所が、子どもや高齢者を含む地域の様々な人の出入りが出来る場



認知症カフェに参加した高齢女性が、
「病院を退院したんじゃがどこへ通院したらええのか
わからんのよ」と話す。



参加していたケアマネ、病院のソーシャルワーカー、
地域包括支援センター保健師と、本人を交え事情を聴き
問題解決について知恵を出し合い 本人に提案した。